

ふるさと宅配便

●山鹿市「ふるさと宅配便」
年間 5,000円で特産品各種(メロン、山芋等)
(お問い合わせ先) 山鹿市農政課 ☎(09684)3-1111

●鹿北町「ふるさと便」
年間 15,000円で特産品4回6品(菊40本、茶、栗3kg、干したけのこ、干しいたけ、スイカ1玉)
(お問い合わせ先) 鹿北町経済課むらつきり5・5・3新運動推進本部 ☎(096832)3111

●鹿本町「ふるさと宅配便」
年間 10,000円で第1回(5月)メロン2ケース、第2回(10-12月)菊、バラ、かすみ草
(お問い合わせ先) 鹿本町農協営農課 ☎(096846)4111



「幸の国」づくり

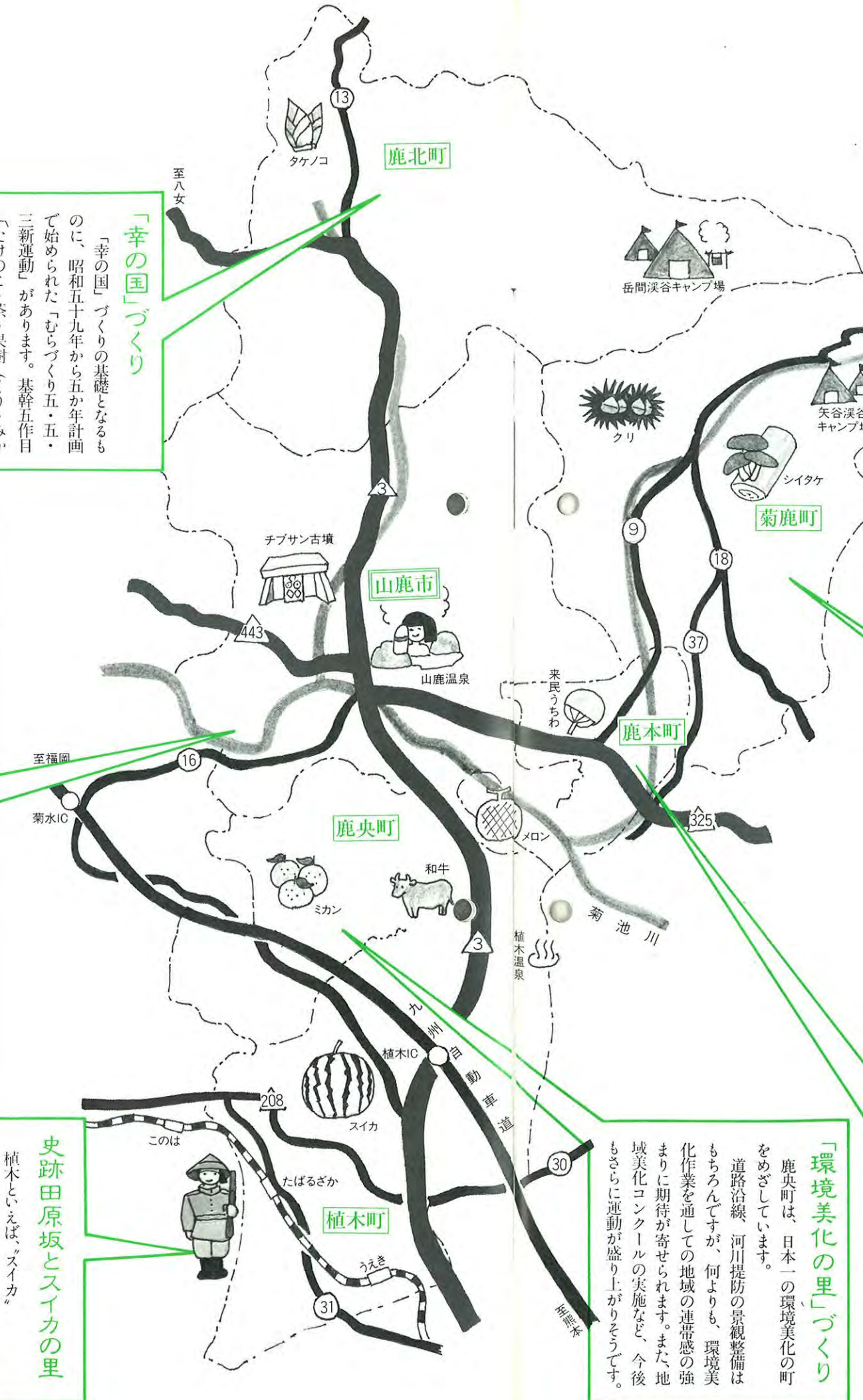
「幸の国」づくりの基礎となるものに、昭和五十九年から五か年計画で始められた「むらづくり五・五・三新運動」があります。基幹五作日〔たけのこ・茶・果樹(くり・みかん)・畜産〕の生産目標額が、それぞれ五億円、そしてスイカ・ナス等新興作物を導入し、その生産額目標を三億円として、生産の向上を図るもので、すべての住民がこの運動にかかわり、基幹作目の振興と新興作物の定着で、ゆとりある「幸の国」づくりに努めています。

灯籠と古墳と温泉のまちづくり

景行天皇の巡幸の折、一面の濃霧にはばまれた進路を、山鹿の里人たちが、かがり火をかけてお迎えしたことに始まると言われる山鹿灯籠まつり。全国的に知名度が高まった今、山鹿を日本一の灯籠の町にしよう、と、さまざまな計画がたてられています。まず、山鹿市への進入道路にシンボル塔を設置し、金灯籠型街路灯で街へ誘導。道路には、灯籠をデザインしたカラー舗装を施し、ポットパーク等を整備するなど、トータルとしての灯籠のイメージづくりが進められようとしています。また、和紙と糊だけで、灯籠をつくる伝統工芸は、全国でも珍しく、これを守るための後継者づくりなどソフト面の充実も図っています。その他にも、山鹿には、国の指定史跡となっているチブサン古墳をはじめ、装飾古墳が点在。その一帯を中心に「風土記の丘」が建設されており、灯籠の持つ神秘的なイメージが、さらに強まりそうです。

史跡田原坂とスイカの里

植木といえは、「スイカ」といわれるぐらい、日本一のスイカの産地として有名です。植木町では、さらに消費者のニーズに合った品種改良をするとともに、土づくりにも力を入れています。今後は、スイカばかりでなく、他の園芸作物の生産にも着手し、ハウスの農業日本一をめざします。また、植木町は、西南戦争の激戦地田原坂でも知られています。昭和五十八年には田原坂資料館もでき、「維新祭」などのイベントが検討されるなど、地域に根ざしたものに付加価値をつけて地域の活性化を図ろうという動きも出ています。



地域性を生かし、イメージづくり。山鹿・鹿本地方の日本一づくり。

山鹿・鹿本地域は、今、地域性を生かしたイメージの統一により、全国のモデルとなるような地域づくりをめざしています。すでに山鹿百人衆や地域懇談会などを結成。人の交流を図り、異った知恵がぶつかりあったときに生ずるエネルギーによって、ユニークな日本一づくり運動を推進しています。また山鹿・鹿本地方といえば、有名な灯籠踊りや、多数の装飾古墳群など、全体として神秘的なイメージ。そこで、そのイメージにあらう「彼岸花」で、地域のデザインづくりをしようという新しい運動がおきました。すでに山鹿市の日輪寺公園をはじめ各地に彼岸花が植えられ、彼岸花をテーマとしたイベントや産品なども登場しそうです。人づくりからはじまった山鹿・鹿本地方の日本一づくり運動は、今、具体的な展開を見せようとしています。

「薬草の里」づくり

生薬ブームで需要が増加している今、菊鹿町では、新しい特産として薬草の栽培に挑戦しています。現在、六十アールの町営の試験畑に、胃腸薬として知られるミシマサイコ・オウレンのほか、セネガ・シヤクヤク・ハンゲ・オウゴン・ジオウ・キハダの合わせて八種の薬草が栽培されています。また、九州大学薬学部の協力を得て、病気に強い生長点培養の「クローン苗」を導入するなど、バイオも活用しており、品質管理にも力を入れています。



今春から、八種類全部の苗を一般農家に分け、本格生産に着手しました。参加農家二十五戸も「薬草生産振興会」を結成、月一回の勉強会や日常の交流を通じて、日本一の薬草の産地をめざして努力しています。

「菊とメロンの里」づくり

鹿本町は、秋菊を中心に電照菊・半電照菊など、年間を通して菊の栽培を行っています。昨年度から、菊消費キャンペーンを実施していますが、実際に菊やカスミ草のほ場を見学し、フラワーデザイン教室に参加するというバス二台のツアーは、大盛況でした。参加した人の中には、他県から見学に来た人もおり、このイベントを通して、地域の広がりを感じられ、今後の活動には、ますます期待が膨らんでいます。鹿本町は、菊のほかにメロンづくりも盛んで、鹿本メロンのブランド化を図るとともに、菊と組み合わせることで全国から会員を募り、「ふるさと宅配便」という宅配便を実施しています。



「環境美化の里」づくり

鹿本町は、日本一の環境美化の町をめざしています。道路沿線、河川提防の景観整備は、もちろんですが、何よりも、環境美化作業を通しての地域の連帯感の強まりに期待が寄せられます。また、地域美化コンクールの実施など、今後さらに運動が盛り上がりそうです。